

## ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)  
前橋市元総社町六七番地  
電話 027・255・3435  
FAX 027・255・3434

朝晩ようやく過ごしやすくなってきました。  
猛暑の疲れが身体の奥深くに残っているような感覚におそわれます。  
そんな疲れを窓辺の草花が風に揺れ「もうそこまで秋が来ているから・・・」とやさしく囁いてくれます。

出勤時に作家のテープやCDをよく聴いていますが、ここ数日、司馬遼太郎の「文章日本語の成立」という講演を繰り返し聴いています。  
日常、私たちが使う日本語の文章は、どのような経緯でいつごろ成立したのか。明治維新後の言葉の変遷をたどりながらの一九八二年の講演です。

ノイエスには多くの作家が来廊されます。

詩、小説、短歌、俳句、川柳、随筆、エッセイ。

絵画、彫刻、陶芸や染織などの工芸、写真、書・・・。

表現の広がりには多面的に拡張していき方法も手段も無限です。

しかし、ふと考えてみると、いったい一人の人間が生きている時に使う言葉の数といたらどのくらいあるものだろうと思いました。

詩人が使う言葉の数、小説家が使う言葉の言いまわし、画家や彫刻家などの作家が話し合っている時に使っている言葉の数。意外と少ないようにも思えます。言葉数が多いから表現力があるとも思えませんが人の心に響く言葉、話し方とはどんなものなのか？考えてみます。

多くの人を前にして話す事を職業としている人は別にして、多くの日本人は人の前で話をする事を苦手とするようです。ある種の緊張をともなったり、事前に考えていた内容から横道にそれたり、考えていたことの半分も話せなかったり・・・。また話し始めて目の前が真っ白になって原稿用紙から活字が飛んでいってしまったり・・・。

経験を重ねることによってこんな状況から少しは開放されるかもしれませんが、経験を重ねたことによる落とし穴も待ち構えていたりします。言葉が流れてしまいマンネリ化して言葉に鮮度がなくなると相手の心に響いてこないという状況です。

自分が使っている言葉をもう一度考えてみると親しい関係でも相手の心に響く、基本的な伝え方が出来るのではないのでしょうか。

向田邦子「言葉が怖い」というテープには「森繁さんの二つの名スピーチ」という話があります。言葉は、その人の生きざま、人格の表れ  
のようです。  
(武藤)

## ノイエス朝日の展覧会案内

関谷チチ子展「葛筆との出逢い 十五年の歩み」

九月四日(土)～八日(水)

午前十時～午後六時(最終日は午後五時終了)

\*ギャラリートーク

九月四日(土) 午後三時～四時

「葛筆との出逢いから」

白川昌生展「まえばし妄想 2010」

九月十日(金)～十六日(木)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時終了)

「まえばし妄想」シリーズ近作八点の展示。

白川昌生にとつての2010年のまえばしへの妄想とは？

版画と油彩小品による

新井勝巳展

九月十八日(土)～二十六日(日)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時終了)

山名将夫展

十月二日(土)～十日(日)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時終了)

大倉美枝子七宝展

十月十六日(土)～二十四日(日)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時終了)

\*九月・十月の展覧会は全て企画展です。

十月の展覧会につきましては、次回のご案内で詳細をお知らせいたします。

なお、展覧会会期中以外は休廊しています。

## お知らせ

白川昌生氏の「美術館、動物園、精神科施設」(水声社)  
定価2800円の出版記念イベントが行われます。

日時 九月十日(金) 午後七時～九時

場所 Art book shop &

Organic Cafe Slow Time

(高崎市鞆町七十八の一 二階)

参加費一〇〇〇円(1ドリンク付)

対談・交流会・質問タイム・サイン会・交流会

平成二十二年度「ぐんまの山村」フォトコンテスト実施にかかわる作品募集のチラシ・応募票がノイエスにおいてあります。出品される方は展覧会会期中にどうぞ。  
入賞作品の展示は、来年二月に群馬県庁舎です。  
審査委員長は写真家の小松健一氏です。

主催・全国山村振興連盟群馬支部・群馬県

## ノイエスのティータイム

今年の夏は何か所かで美しく咲いている蓮の花を見ました。蓮の花は、早朝咲いて午前九時頃には閉じてしまい。二日目も同じように咲いて午前中には閉じてしまい。三日目には最大に咲いてお昼頃にはやはり閉じてしまい。四日目には八時頃には咲くもののお昼頃にはすべての花弁が落ちてしまうそうです。

ハスの実の甘納豆のようなお菓子を食べたことがあります。蓮根も大好物です。お寿司に入れたり、キンピラにしても美味しいですね。なかなか手に入りませんが蓮の葉がまだ巻き葉の時に作る蓮の葉ご飯というのも香りがとつてもよくて美味しいそうです。一度味わってみたいものです。

熊本名物「からし蓮根」は、三六〇年前(江戸時代)病弱だった細川家初代の殿様のために考案されたとか・・・。

九州物産展やお取り寄せで味わってみてもと思います。お酒のつまみにも、ちよつぱり辛く歯ごたえのある蓮根は食卓に刺激的かもしれません。

今回も食の話で終わります。

